
光と闇 対なるもの

鶴橋ユウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

光と闇 対なるもの

【Nコード】

N9087B

【作者名】

鶴橋ユウ

【あらすじ】

光りを憎んだ一人の人間のお話。人を憎み呪いを拒絶した。その先にあったものは…？

《光と闇
対なるもの》

彼女は光の存在を憎んだ

光は
闇を産み

彼女の醜くさを
より浮彫りにした

眩いばかりの
光の世界で

ぽつりと
浮かび上がった
己の影やみが

あまりにも
惨めで
虚しくて…

彼女は叫んだ

『私ハコンナニ醜ク無イ!!』と

彼女は

自分以外の人間を
否定した

周りの目は

彼女を追い詰め
劣等感を与えさせた

誰よりも自分は劣っている…
そんな錯覚さえ覚えた

彼女には

それが赦せなかった

それ故拒絶した

『才前ラガ居ルカラ…私ハ劣ッテ見エルンダ!?!』…と

彼女は全てを

憎み

怨み

否定した

それらは彼女の願い通り

全てが

消え失せた

そして残ったものは

混沌の闇だけだった

何もかもを飲み込む様な

純粹な黒

自分の存在が

闇に溶け込む

自分が存在して居るのかも

わからなくなった

彼女はやっと気付いた

外の光が

眩し過ぎて

自分の影にある

光が

見えて無かったこと…

他人が存在する事が

自分の存在する証であり

独りでは

意味が無いことを…

全てを失い

初めて彼女は思い知った

自分の愚かさを

何かに擦り付けていただけなことを…

彼女は泣き叫んだ

「私ハタダ、誰デモイイ…誰カニ認メテ欲シカッタダケナンド…！」

何も無い
暗闇の中

音は溶けていった

（後書き）

最後まで読んでくださってありがとうございますm（
感想などを書いて下さったらもっと嬉しいです！
）m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9087b/>

光と闇 対なるもの

2010年10月11日12時15分発行